

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1 . 概 況

県内の景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている。

最終需要の動向をみると、公共投資が前年を下回ったほか、住宅投資が低調に推移しており、設備投資も大幅に減少している。また、個人消費は一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

こうした中、生産は横ばいで推移しており、雇用情勢は厳しい状況が続いている。

2 . 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、主力の衣料品は依然低調に推移しているが、食料品の催事が好調だったことから、前年比マイナス幅は縮小している。スーパーでは、消費者の生活防衛意識の強まりを反映して、販売点数と単価の下落に歯止めがかかっておらず、前年を下回って推移している。

(家電量販店売上高)

家電販売は、エコポイント効果により薄型テレビや冷蔵庫が好調に推移していることから、全体でも前年を上回って推移している。

(新車登録台数)

2月の新車登録台数は、乗用車が引続き好調なうえ、貨物車も前年を上回ったことから、全体では前年を2割強上回った。

(2) 公共投資

2月の公共工事請負金額は、国からの発注が落ち込んでいることから、3カ月連続して前年を下回った。

(3) 住宅投資

1月の新設住宅着工戸数は、持ち家が前年を上回ったものの、貸家、分譲マンションは低調に推移しており、12カ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2009年度の設備投資計画(12月短観調査結果*)は、依然設備過剰感や需要の先行き不透明感が強いことから、大幅に減少している。

*09年度計画・前年度比：製造業 41.0%、非製造業 12.7%、全産業 38.0%

3. 生産動向

生産は、このところ横ばい圏内の動きとなっている。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、東アジア諸国からの受注増加を主因に持ち直してきたが、足元は横ばいで推移している。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、政策対応を受けた国内外の需要の回復から、減産を緩和している。

(一般機械)

半導体製造装置は、東アジア諸国からの受注回復を背景に、急速に持ち直している。建設機械部品も、中国からの受注回復などから持ち直してきている。一方、工作機械は、依然受注が低迷しており、減産を継続している。

(その他)

窯業・土石、木材・木製品は、民間需要の低迷などから減産を幾分強化している。鉄鋼は、タイヤメーカーからの受注増加を受けて持ち直してきたが、足元は横ばい圏内で推移している。この間、食料品は、一部に増産の動きもみられるが、全体としてはほぼ横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

1月の有効求人倍率（季節調整値）は、0.35倍（前月：0.34倍<改訂>）、新規求人倍率（同上）も、0.75倍（前月：0.68倍<改訂>）といずれも前月比で上昇した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回っていることなどから、前年割れが続いている。

5. 企業倒産

2月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が4件（前月3件、前年同月8件）、負債総額が1億64百万円（前月1億77百万円、前年同月24億12百万円）と、引続き落ち着いた動きとなっている。

6. 金融面の動向

預金動向は、個人預金が堅調に推移しているうえ、法人預金も企業が手元流動性を厚めに行っていることを映じ増加しているため、前年を上回って推移している。

貸出動向は、地方公共団体向けが増加しているものの、住宅ローンが頭打ちとなっているうえ、法人向けも前年割れとなっていることから、前年並みの動きとなっている。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先

日本銀行盛岡事務所

TEL：019-624-3622（代）

<http://www3.boj.or.jp/morioka/>